

みんなの童話

とつておきのたんじょう日



今日は、とくべつなにもちょう日  
です。  
「いいにおい。ホットケーキだ」  
ホットケーキのにおいが、かい  
だんをのぼってきました。ほくは、  
ホットケーキが大好きです。  
「朝ごはんはホットケーキなんて  
だめよ」  
お母さんは、朝はホットケーキ  
をやいてくれません。  
「今日は、とくべつなんだ」  
ほくは、いそいで着がえるとか  
いだんをかけおりました。  
「六さいのおたんじょう日、おめ  
でとつ」  
お父さんとお母さんが、言いま  
した。

「たんじょう日にはふしぎな事が  
おこるもんだよ」  
お父さんは、ほくのホットケ  
ーキにシロップをかけました。  
「ふしぎなこと」  
「そうだよ。たんじょう日には、  
ごちそうがたべられたり、ふしぎ  
な事がおこったりするもんだよ」  
ほくは、ホットケーキを見つめ  
てうなずき、わくわくしながらた  
べました。  
「ひみつ基地に行く」  
それから、ほくは大きな木の  
上  
のひみつ基地に行きました。太陽  
の光がきらきらとはっぱの間から  
さしこんでいます。  
とつぜん風が、びゅーとほく  
かみをみだしながら、通りすぎま  
した。バサッバサッと枝がゆれま  
した。  
「わあーてんぐだあー」  
てんぐが枝にぶら下がって、今  
にもおちそうです。  
「おれがてんぐだって、どうして  
わかるっおれが見えるのか」  
「絵本で見たからさ。すがたが見  
えるのは、今日はほくのたんじ  
ょう日だからね」  
「そんな事はあとにして、はやく  
たすけてくれー」

てんぐのかおがますます赤く  
なっています。  
「どうしたらいいの」  
「そこに落ちてるうちわを投げて  
くれ」  
ほくは、うちわを投げました。  
うちわは風にとってまい上がり、  
てんぐがうちわをつかみました。  
「ありがと、ありがと」  
てんぐは、えがおで言いました。  
「さっきはなしてた、たんじょう  
日って何だ？」  
「生まれた日をおいわいするの  
さ。ごちそうを食べたり、プレゼ  
ントをもらったりするの」  
「ほう」  
てんぐの目がうらやましそう  
に、細くなりました。  
「じゃ、わしもそのプレゼントと  
かいつものをあげるとしよう」  
てんぐがうちわをふるると、いま  
で空にうかんでいた雲がスウッと  
とんできました。  
「さあ、いい所につれて行ってや  
ろう」  
てんぐはびっけりしているほく  
のうでをつかんで、雲にとびのり  
ました。  
「ひゃー」  
ほくは目をつぶって、てんぐに  
しがみつきました。  
「目をこじていては、何にもみえ  
んじやろ」  
ほくは、おそるおそる目をあけ

ました。  
「わあーすげー」  
家や学校がおもちゃのやうに見  
えて、手がとどきません。  
「雲がどんどんあつまってるく  
るよ」  
「雨雲をあつめているのさ。雨を  
ふらすのを見せてやろう」  
雲は、大きくなりました。  
「これくらいでいいだろう。あつ  
めた雨雲をぜんぶふらすぞ」  
「うわあ、すごいー！すごいなあ」  
町中に雨をふらせて、雨雲はど  
んどん小さくなりました。  
「さあ、かえるぞ。町をきれいに  
あらったからな」  
「わあー、にじだ。きれいだな」  
てんぐは、雲にのった所にもど  
りました。  
「てんぐさん、ありがと。おも  
しろかった」  
「それはよかった。たんじょう日  
のプレゼントになったかな」  
「うん、今日はとつておきのたん  
じょう日だよ」  
てんぐは雲にのって、にじが出  
ている空にきえていきました。  
ほくが家にかえると、お父さん  
とお母さんのプレゼントとごちそ  
うが並んでいます。もちろん、  
ホットケーキも。  
しろやま会員 木村久世